

説明的文章の効果的指導と 実践記録

見附市立今町中学校教諭

佐野 忠 敏

はじめに

この研究は日常展開されている国語学習において、要旨を効果的につかまさせる指導過程を設定し、その実践過程において、効果的と思われる幾つかの点を抽出して、読解指導を容易にし、生徒の読解力を高めることを目的とする。

そこで、このような研究が志向された根拠である次の3点について説明し、研究の趣旨を一層明確にしたい。

1 生徒の実態

本校生徒の実態を見ると、「説明文の要旨や要点を把握する力」や「文脈の中での語句の意味の理解」などの低いことが問題になる。また、国語の自学自習の方法をじゅうぶん知らないということが、読解力向上の障害となっていることが推察される。

2 国語学習指導上

説明的文章には、論理が明確で、逐次要点を把握していけば要旨が把握できる、という種類の文章が比較的多い。このため文章の基本として、説明的な文章で読解技能を確実に身につけておけば説明的な文章以外の読解教材を学習する場合にも方法上応用でき、学習が比較的容易に済み、理解も速くなるのではなかろうか。そこで説明的な文章でじゅうぶん読解技能を身につけさせることは国語学習上意義あることであると考えられる。

3 他教科との関連上

基礎教科といわれる国語、社会、数学、理科の中でも、国語がその基礎となることは誰もが認めるところであろう。その国語の中においても、説明的文章の読解力を高め、要旨を確実に、しかも速くつかむ能力を養うことは、他教科の教科書の文章が説明的な文章で書かれているので、その理解に直接関係し、よい影響をもたらすと思われる。

I 読解力 特に要旨のつかませ方に対する私の立場

1 読解力ということ

読む、ということは、読み手が作者の言わんとすることを正しく受け入れ、自分なりに解釈し、理解していくことである。読む活動は読み手がその目的を達成するための活動である。したがって、読解指導という場合は読むことの能力を確実に伸ばすことを目的としている。

2 読解力を養うために

読解力を養うために二つの仮説を設定した。一つは作業仮説としての読解過程であり、指導事項の設定である。

もつと具体的に説明するならば、読解過程は読み手が書き手の主題

や要旨に迫るための読む深まりの過程であり、指導事項とはその文章に対して、読み手が読みを深くするための言語技能であると考ええる。

そして、その両者がおこなわれていく過程を読解指導過程と考える。

(1) 読解指導過程

① 学習計画樹立

生徒は家庭で通読してくるようになってきているので、教室では教科書に掲載されている学習計画やねらいを参考にし、教師の指導で話し合いながら、単元、教材、各時間になにをするか、など概略計画をたて読むかまえを作る。

なお、教師は指導事項、各教材ごとに生徒に書かせる学習予習調査用紙などにより生徒の問題意識を調べ、学習事項、計画を整理しておく。

② 読む

大意を把握する。その間に、重要語句、新出漢字の理解、理解困難なことがらを研究し、読解のための抵抗を排除する。

③ 学習問題の設定

本文を精密に構造的に読みとらせるための指標であり、読解を深めるための視点の設定という意味をもつ。

学習問題は要旨の把握に関する問題と、読解技能を養うための問題と二種類ある。両者とも学習問題に違いないけれど、前者を主目的として、後者をその学習問題をとく手段として読解指導過程の中に位置づけられる。

ここで、学習計画は再検討され、再確認される。その結果生徒は学習の目的を明確に把握するとともに学習の見通しをもち、一層意欲的に学習すべく動機づけられる。

④ 調べる

ここでは分析、総合を行ない、それに必要な知識、技能、態度を集約的に学習する。

要旨につらなる学習問題の解決ということで細部をおさえ、必要に応じて語句やことばのきまりを究明し、意味のまとまりや個々の部分の相互関係をつかむ。

実際の学習は次の二面から展開される。

分析的把握（問題—学習事項—を中心に、的確に内容を把握させる）

要点把握（段落の相互関係）語句の認識

文脈中心把握（論理的に文脈をたどりながら内容を把握させる。）

指示語、接続語を手がかりに読解（ことがのきまりの指導）

⑤ まとめる

個、部分の認識より相互関係、総合的認識、今日的次元での問題意識まで発展させる。

要旨をまとめさせる。

読みとった内容を文図に整理し、再構成する。

読みとった内容に対し、自分の感想をまとめる。

⑥ 練習と反省

各段階で練習と反省（自己評価を含む）は行なわれるのであるが、

自分たちのたてた学習問題に対しての到達度や学習計画の反省をする。
練習では、主として読解技能面で、重点化された学習問題を問題の観点に据え、なるべく同様な教材について問題を作成し、練習させる。
総合評価は別に実施する。

(2) 指導事項

思考力を高めるべく、文章の内容について指導事項を設定して指導することは当然であるが、他に、技能、態度についても指導事項を設定する必要がある。ここでは前者は各教材について設定されるので、後者についてふれてみたい。

① 読みの構え 態度に関する指導事項

目的意識を明確にもたせて読ませることの重要性はいうまでもないところであるが、指導の段階では次の諸点を取りあげられねばならない。

- (i) 文章を読もうとする学習意欲が養われ、主体的態度が確立されること。
- (ii) 文章の＜表現 叙述の細部＞に対する忠実な態度が養われること。
- (iii) 文章の種類（ジャンルや文型 文体等を含む）に即応した読みの態度が養われること。
- (iv) 文章の要旨 主題を想定し、それを確かめていこうとする態度が養われること。

② 読解技能に関する指導事項

中学校国語指導書掲載の指導事項を本校生徒の実態と考え合わせながら分析し、具体化した表である。

なお、他の文種にも共通する基礎的指導事項と、主として説明文における指導事項と二様にわけて考えたのであるが、ここでは後者の一部分を抜粋して掲載する。

める	ぶ		
結論を短い文にまとめる	文章の中から結論の含まれる文を見つけ出す	結論を短い文にまとめる	結論を短い文にまとめ、自分の意見をまとめる
要旨を、叙述に保証を求めながら正しくつかむ	文章段落を見分け、要旨をとらえる	要旨を叙述に保証を求めながら正しくつかむ	要旨の内容を十分理解し、それについて自分の意見をもつ
初めの読みとりと検証後の把握を比べ、その相違の原因を調べる	初めの読み後の読みとりと終末段階における読みとりとの結果を比較する	初めの読みとりと検証後の把握を比べ、その相違を考える	初めの読みとりと検証後の把握を比べ、その相違とその原因を考える
簡単な文図を作ることにより要旨をはっきりさせる	簡単なアウトラインや文図を作成し、要旨との関係を考える	文図を作ることにより要旨をはっきりさせる	文章構成を理解し、要旨がどのように書きすめられているか正しく読みとる
要点 要旨 感想などについて考える	要点 要旨 感想などを区別して考える	要点 要旨 感想などをはっきり区別して考える	要点 要旨 感想などを整理して考える

その他、要点把握、段落相互の関係把握、文章の論理的構成の把握作者の意図把握などを分析し、各学年別に系統化して、説明文の指導事項とした。

3 教材研究について

国語学習指導を効果的に行なうために教材研究は是非とも必要であるが、時間的制約もあるので、次のねらいのもとで、指導案と文図を作成することに焦点づけた。

(1) ねらい

- (i) その教材が国語科指導計画の中で占める位置を明らかにする。
- (ii) その教材に関する生徒の能力、興味、関心の所在、内容を把握する。
- (iii) その教材の重点を明確にする。
- (iv) 教材に応じた指導方法を工夫する。

(2) 指導案作成

指導案に対する基本的考え方として、指導者が教材を指導する場合明確な目標を立て、それを達成するための指導計画をたてる。この場合、教師の一方的計画に生徒を乗せるだけでは意欲的な学習は育てられない。学習の主体は生徒なのだから、生徒たち自身もめあてをもち計画を立てて、自覚的、能動的、意識的、積極的に活動するようにさせる。つまり、教師の意図する指導過程は同時に生徒自身の自発的な

学年 項目	1 年	2 年	3 年
	㊦文章の要旨をつかむこと	㊦文章の要旨を確実につかむこと	㊦文章を読んで要旨をつかみ、それについて自分の意見をもつこと
表現を手がかりにして要旨をつかむ	作者の意図や要旨の表われているところ特別な表現に気づく	作者の意図や要旨の表われているところの表現をとらえる	作者の意図や要旨の表われているところや表現をとらえ、要旨をつかむ手がかりにする
要旨を簡単な主述関係の文にまと	幾つかの文例の中から要旨として適当な文を選	要旨を簡単な主述関係の文にまとめる	要旨を短い文にまとめる

学習過程であるようにする。もっと端的に表現するならば「生徒を生かす授業」ということである。その中には次の点が生かされる。

- 生徒から出発する。予習調査用紙を点検して 読みの正しさやあまり、こまやかさやあらさ、深さや浅さ、感じ方や受けとり方を個別にとらえる。
- 生徒を生かす。事前調査をより多く利用し、授業中それを発表させ磨きあわせることによって客観的読みの力をのばす工夫をする。
- 勉強の仕方を身につける。「勉強しておいてよかった」という実感をもたせるようにする。

そして、各時間1枚にまとめられた指導案を見れば当校の生徒を指導できる、ということにしたいわけである。(詳細は実践例にゆずる)

(3) 文図，作成

文図は教師の教材研究という意味と、生徒に的確に要旨を把握させる意味で研究する。

文図作成については学年的指導段階など指導事項の欄でふれたので詳細説明を省略する。

II 研究計画と方法

1 第1期研究

研究に対する基本的考え方。読解指導過程と指導事項の設定
年間指導計画の設定 (重点教材の設定)
・詩，随筆 ・辞書の引き方 (1年) ことばについて (2年) 文学教材 (3年)
時間配当も重点的に行なった。

2 第2期研究

読解指導過程などについて、授業を通して問題点を摘出し検討する。

3 第3期研究

研究のまとめ、吟味と整理

4 研究の手順と方法

(1) 教材

次の教材を説明的文章として取り上げ、研究対象とした。

学年 研究の主眼	1 年	2 年	3 年
全過程の検討	○ことわざ	見ることに ついて	マスコミュニ ケーション
学習計画，読むの 段階の検討	砂漠の歴史 シャンポリ オンの苦心 生物のいる 星 いない星	ものの見 方 ○とんびと あ ぶらげ まとめ 方	
調べる 練習と反 省の段階の検討	○印の教材の学習過程 は全部記録し検討した		○知識と常識

(註) 使用教科書は学図 中学校国語

(2) 授業研究

授業研究は個人研究と共同研究の両面から行なわれた。個人研究では共同研究により作成した指導案によって授業を行ない、そのメモや感想をもとに討議を進めた。共同研究では4〜10名により各担当の記録をとり研究協議を進めた。各分担の一例を示すと

テープコーダーによる記録	1 名
教師の発問，板書	1 名
生徒の反応 (全体抽出グループ 又は個人)	1〜4 名
雰囲気 (学習集団としての積極性，活動量など)	1〜4 名
撮影	1 名

III 説明的文章の指導例

1 指導計画

2 年

昭和39年9月29日水曜，2校時

単元名 研究のまとめ

単元設定の理由

1上ではいろいろな教材で帰納しながら、経験的に読解技能を高め1下で読解方法などを意識させて指導した。また観察記録においては科学的に物を見、論理的に思考し、それを組織的に論述する能力を高めることの指導を行なった。さらに、2上では説明文を正しく読解する力を身につけさせるべく努力した。そして、ここでは、表現が論理的で、内容が科学的である論理的文章 (科学的随筆とも考えられる) で生徒の論理的思考力を練り、読解力を養成し、論理的文章の組み立て方を学ばせようというわけである。

生徒は論理的文章を学ぶことが得意でない。特に構成力を要する論文を書く力に欠ける。したがって、教材としては適しているが興味深く学習させることはむずかしい。しかし、グループ活動などを活用して、低次の段階の生徒をも参加させ、読解を深め、文の組み立ての力を培うように指導したい。

単元目標

◎科学的な論文体の随筆を読むことによって、論文体の文章になれさせ、日常の何げないできごとにも科学的な目を向けようとする態度を養わせる。

- ・科学的な論文体の随筆を読む技能を高める。
- ・論理的に記述された文章の内容をすじみちたてて読みとることによって文図の構成法を学ばせる。

指導計画

- 1. 「とんびとあぶらげ」の読解指導 4校時
- 2. 「まとめ方」の読解と論理的文章の書き方指導 3校時
- 3. まとめと評価 1校時

とんびとあぶらげの指導計画

目標

- ◎とんびがあぶらげを発見する理由を読み解きながら随筆に親しみ、自分の生活を注意深く見ようとする態度を養う。
- 科学的な随筆を正しく読み解く技能を高める。
- 文末の表現によって作者の意図が正しく読みとれる。

計画

- 学習計画をたてる。語句の抵抗排除、大意把握 $\frac{1}{4}$ 時
- 学習課題の設定、細部検討 $\frac{2}{4}$ 時
- 材料を摘出し、相互の関係について考え論点論旨を把握する $\frac{3}{4}$ 時
- 科学論文における表記上の厳密さについて学ばせる。 $\frac{4}{4}$ 時
- 練習と評価

本時の学習 ($\frac{2}{4}$ 時)

- 目標 ○本教材の学習問題を設定する。
- 細部を検討する。

展開

時 間	過 程	内 容				備 考 (留意点)
		指導事項	教師の主な発問	学習活動	生徒の予 想される 反 応	
(内 容 は 省 略)						

2 授業記録

記録者 教師の発問(1名)生徒の記録(1名)雰囲気 板書(1名)
抽出生徒の記録(2名)テープコーダー 撮影(1名)



授業記録

注 G グループ

過 程	時 間	教師の発言	生徒の反応	雰囲気 板書	反省と考察
前時の学習の確認 学習	(分)	＜昨日の大意の把握の確認をし、本時の学習にはいる＞ 学習計画に従って、学習問題を協力して考えてみたいと思います。だいたい考えてある人、手	静かによく聞いています。 ＜生徒の板書＞ 1 G 視覚に よるのではな いと一応嗅覚 を考えてみなく くてはなりま	霧開気 板書 学習問題の 設定にいつ も25分前後 をとってし まうので むだな時間	

問題の設定

	をあげてごらん それではG(以下グループのこ と)で話しあっ て、5分間で意 見をまとめな さい。 やめなさい。 それではGの代 表は自分達の問 題を板書しな さい。 さて 各Gから でた問題ですが 1 Gは「—」 で、その内容に ついて考えてみ るということ ですね、北沢君 それでよいかね。 2 a Gの問題は 二つになってい ますね。 2 b Gは「—」 3 a Gは「—」 3 b Gは「—」 4 a Gは「—」 5 a Gは「—」 これは4 a Gと 同じ問題だね 5 b G 3 a G と同じ問題で すね。 6 a Gは「—」 6 b Gは「—」 15 6 b Gの問題と 文の組み立ての 問題は他の問題 と少し違ってい ますね、どうし たらよいですか 長坂さん 他の人はどうで すか。	挙手 $\frac{2}{3}$ 位 すぐにノ ートをも ってでる。 (板書は 順々にし ているG が多い) うなづく	ん。の意味 2 a G とん びについての 作者の言いた いこと 文の組み立て 2 b G 作者は 視覚又は嗅覚 によらない、 ということ なぜはつきり 言わないか。 3 a G とん びの視覚説は なぜ疑わしい のだろうか。 3 b G とん びは高い所か らどのように してネズミを 見つけるのか。 4 a G もし 一度とんびの 嗅覚 又はそ の代わりの役 目をする感覚 器官が存在す ると仮定すれ ばなぜ解決が つくのでしょ うか。 4 b G にお いはどうい ふうにしてう すくもならず 百米もの上空 に届くことが できるか。 8人挙手 5 a G 4 a Gと同じ。 5 b G 3 a Gと同じ。 6 a G ダー ウィンとある 学者のやった	とは思わな いけれども もっと短縮 する必要が ある。 G活動の中 に話し合い 考え、ノー トする時間 を入れてか ら、よく手 をあげるよ うになった。 他のGより の問題にも 関心をもち 自分の問題 に固執して いない。
--	--	---	--	---

17	みんなはこの問題の中で、自分たちのGで考えた問題を離れて自分ならこの問題がよいと思う問題を考えて下さい。本をもう一度読んで考えて下さい。	はぬけてよいと思います。他生徒賛成	実験はどうしてたよりないか。6 b G この文について説明、事実例をあげて、意見を述べている部分を書き出す。	りあげようと思っていたので適当な問題と考える。全文にできただけわたし中心思想を最終的に把握できること、常に読みかえすという意味で読ませようとしたがよく読んでいたので3分で切りあげた。
20	考えたならなぜその問題がいいか、その問題一つと理由を書きなさい。		よく勉強してきたせい、かなり速く真剣に読んでいる姿が見受けられる。	
25	話しあいの結果3 a G, 3 b G, 4 a Gの問題をとりあげ学習することに決定した。			(以下省略)

むすび

この研究は昨年度来要旨の把握の研究を中心に、実践を通して積み重ねてきたものである。その成果は微々たるものであるが、総合読解力テストによって1年前の結果と比べてみると、全般的に向上しているが、特に読速度・文脈・要点把握・語理解が向上している。文部省の学力テストなども、上記の分野に関連した問題は得点率が高かった。また生徒の二学期の反省の中で「よくわかるようになった」「おもしろくなった」という回答が増加した。指導力が未熟なため、じゅうぶんな指導効果をあげ得なかったのであるが、いくらかでも国語が好きな生徒を得たのは予期以上の成果であった。

次に、この研究期間に、読解力を高めるのにいくらかでも効果があったと思われる試みの幾つかについてふれたい。

- 1 読解指導過程を整理し、読解の型を指導したこと。
- 2 読解技能を各学年ごとに系統的に指導するよう努めたこと。
- 3 教師のおもな発問を精選し、生徒に考える時間と、ノートをし、話し合う時間を与えることによって要点把握を容易にしたこと。
- 4 グループ学習、バズ学習により学習の浸透をはかり、学習活動を活発にして学習効果を高めたこと。
- 5 学習計画をたて、学習問題を共同で作成することによって、広い視野で、見通しをもった主体的学習の営みができるようになったこと。
- 6 学習の手引(勉強の仕方)については、読解鑑賞教材・聞く・話す・作文などの教材について、どのような点に着眼し、どんな順序で学習したらよいか、などを記し、年間学習計画とともに配布指導したこと。家庭学習の結果は $\frac{1}{2}$ 半紙に印刷した学習予習調査用紙によって調べる。

○読み、意味、長文、段落把握、文脈、興味についての困難度

○要点把握 ○要旨把握 ○感想 考えたこと、作者の考え方

○特に勉強したい点 ○よく教えてもらいたい点について

- 7 チョーク板書だけでなく大洋紙を活用し、連続性と発展性をもたせたこと。

- 8 文章構成図を作成することにより、文の構造・要旨を明確に把握する。

- 9 練習と評価の位置づけについては、指導過程の各段階において観点を据えて練習をし、評価する。(机間巡視、ノート検査などを含めて)

10. 教師の教材・指導法の共同研究

読みひたらせるという意味での文学教材との関連、誰でもが各時間ごとの指導案を持てば当校の生徒を指導できる、というねらいからすれば、専門家としての国語教師に疑問を感じる。など、私の意図した指導過程にも幾多の残された問題がある。これから中学校における読解指導の望ましい姿を追求し、一層確実なものにしていきたい。